



～お葬儀屋さんのひとりごと～

お骨壺のお話 ③

3. 遺骨、骨壺の搬送方法

「お墓参りに行きたいけど、遠方でなかなか行けない・・・」
「先祖代々のお墓が田舎にあって管理が大変・・・」
などの理由から改葬・お墓の引越しを考える方が増えています。
また、子どもたちに負担をかけたくない、お墓を護っていく者がいない、とお墓の継承の問題で改葬をする方もいらっしゃいます。
改葬・お墓の引越しをする際、離れた地域から遺骨を持ち帰りたい。
納骨先のお墓までお骨を運びたい。
こんな時、どんな方法で運べばいいのでしょうか？
高齢で手に持って移動するのは大変・・・
道中一緒にいたいけど、そんなこと出来るのかしら・・・
遺骨や骨壺の運び方の疑問についてお伝えします。



○ 飛行機の機内へ持ち込めるの？

基本的に持ち込むことが可能です。ただし、他の乗客への配慮なども考えて、バッグに入れる、風呂敷で包むなどすることがよいでしょう。
搭乗し席に着いたら、一般の荷物と同様に収納しないとイケないか、膝の上に置いて問題ないかなど、乗務員に確認しましょう。安全上の問題などもあり希望どおりには難しい場合もありますので、事前に確認しておくことがよろしいでしょう。

○ バス、タクシー、電車は？

基本的に、手荷物として持ち込むことが可能です。大切な方の遺骨ですから、なるべく離したくないという方は、タクシーや電車などを使えば、目的地まで一緒に移動することができます。ただし、他の乗客への配慮を忘れずに、布で包むなどしましょう。

○ 遺骨を宅配便で送ることは出来る？

多くの宅配便では、規約で遺骨の引き受けをしないと決めており、送ることができないケースがみられます。

例：ヤマト運輸の宅配便利用約款 では、遺体、遺骨は「引受拒絶」の項目に挙げられています。

国内では、郵便局が取り扱う、郵パックで送ることが可能です。とはいえ、大切な遺骨ですので、なるべくご自身の手で運ばれることを優先され、やむを得ない選択肢として利用されることをお勧めします。

実際に、送る時には、骨壺の中に水が溜まって、輸送途中で水が漏れ出てしまうことがあります。特にお墓に長く埋葬していた骨壺を取り出した場合は、中に水が溜まっていないか、ふたをあけて確認し、少し風通しを良い場所に置いておくなどしましょう。

そのうえで、梱包する時は、水を吸うように布などを一緒に入れておくとうよいでしょう。

また、輸送中の衝撃で骨壺が割れてしまうことのないように頑丈に梱包し、伝票には「割れ物」や「瀬戸物」と記載しましょう。

送り先が、お寺やお墓の場合は、必ず事前に、送る旨を伝えて受取が可能かどうかを確認しておくことが大切です。